

日本のサイバーセキュリティを「連携」「学び」「創造」



ISEPA キャリアデザインWG



～セキュリティ業務職種のキャリア展望について～

概要説明

レポート構成について



2020年のJTAGキャリアデザインワーキンググループでは、2つの資料の作成を行った。

資料①

セキュリティ業務職種のキャリア展望について_v1.0

2つのテーマでキャリアについての分析・考察をまとめたものである。1つ目のテーマは、セキュリティ業務のキャリアアップ・キャリアチェンジの可能性を、実績だけで考えるのではなく、JTAG財団が定めたサンプルプロファイルを用いて行った。2つ目のテーマは、「個人のキャリアの8割は、偶然の出来事によって決定される」という計画的偶発性理論を用いて、行動特性の考察をおこなった。各テーマの中で分析やインタビューなどを行い、考察をまとめたレポートである。

資料②

セキュリティ業務職種のキャリア展望について_別冊

JTAG財団にてまとめられたサンプルプロファイルの相関分析を行い、全職種の関係性を別冊としてまとめたものである。プラス・セキュリティを除く、129種類の職種の相関を網羅した。どの職種とどの職種に相関があり、キャリアアップやキャリアチェンジに繋がるかを考えることが可能になる。

検討・考察の概要



テーマ①

セキュリティ業務のキャリアアップ・キャリアチェンジの可能性を、JTAG財団が定めたサンプルプロフィールを用いておこなう

主な調査内容

- JTAG財団で定めた各職種のサンプルプロフィールに定められたスキル診断評価点を元に、職種間の相関を分析
- 分析結果から、『相関関係が数値上算出されない職種』、『相関関係が多い職種』を考察
- 技術職から非技術職へのキャリアチェンジの可能性を考察
- プラス・セキュリティ人材のキャリアチェンジの可能性を考察

テーマ②

「個人のキャリアの8割は、偶然の出来事によって決定される」という計画的偶発性理論を用いて、行動特性の考察をおこなう

主な調査内容

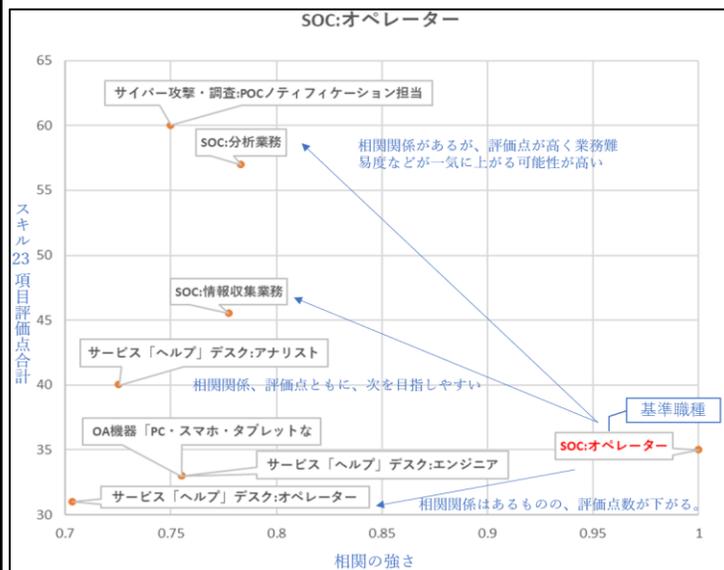
- 「セキュリティ業務を担う人材のスキル可視化における概念検証報告書 ～トライアル結果の考察～」のデータを元に分析
- ネクストエデュケーションシンク社が持つデータとの比較分析を実施し特性を調査
- 業務内容・役割別の傾向や業務特性別の傾向を、データ収集時に取得したハイパフォーマー、非ハイパフォーマーでの比較を実施し傾向を調査

テーマ①

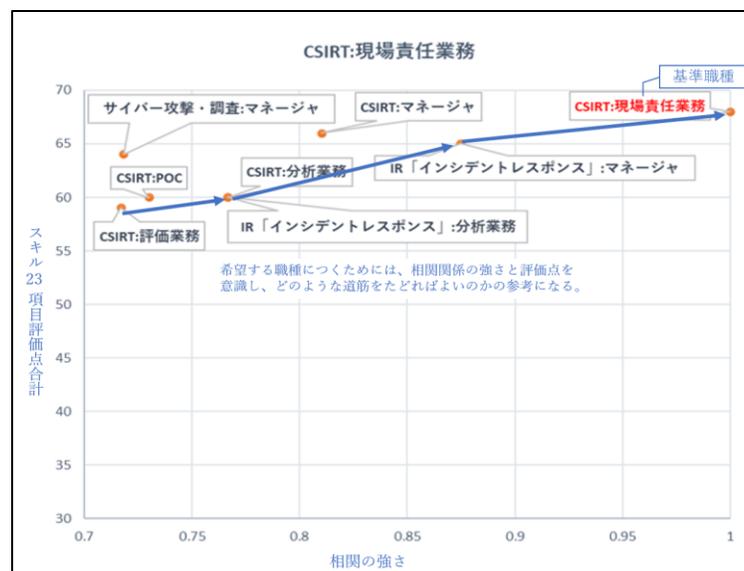
サンプルプロフィールをベースとした、キャリアの相関分析



キャリア相関マップの全体的な考察



現在従事している職種から次のキャリアパスを描いた際にどのような職種についていくのが良いのかを検討する際に役に立つ



目標とする職種を目指すために、どのような職種を経験していく道筋があるのかを検討する際に役立つ

キャリア相関マップの特徴的な点の考察

数値上では相関が無い職種でも実際にキャリアを築いている方などのお話を聞くことが出来た。社内異動や転職などで職種を実際に転換してきた事例もあった。数値だけではわからないより具体的なキャリアの在り方をまとめている。

技術職から非技術職へのキャリアチェンジの可能性考察

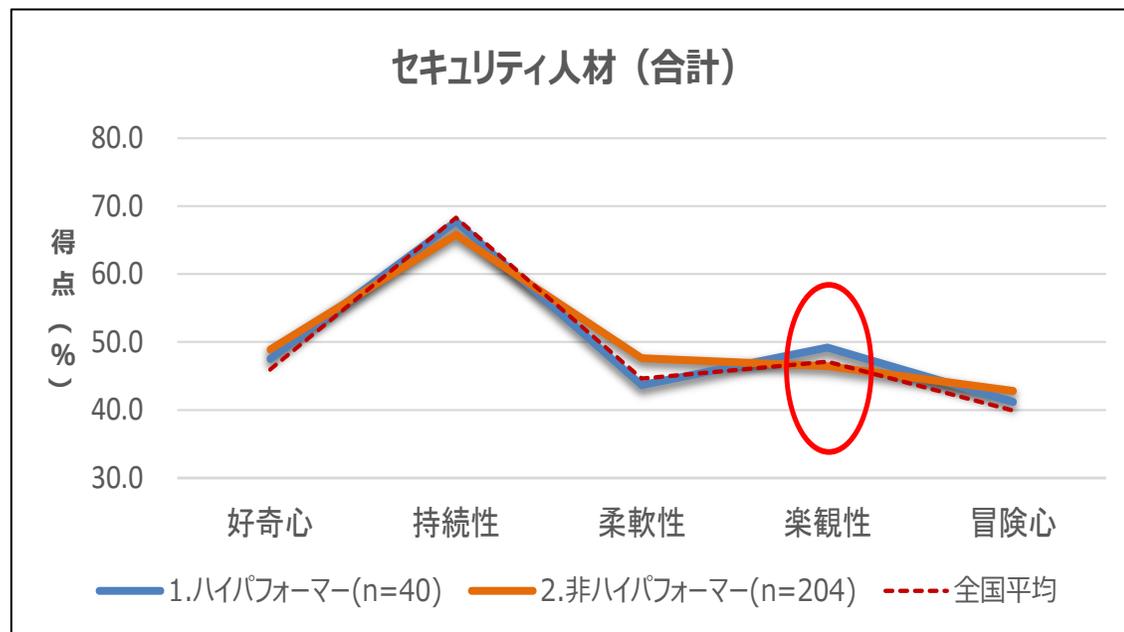
12名(各30分)のインタビューを行い、技術職から非技術職へのキャリア考察を行った。技術職では「今までできなかったことができるようになった」という意見から、非技術職では「自分視点ではなく周囲からの感謝がやりがいに繋がっている」という意見を聞くことが出来た。再び技術職に戻りたいという方はおらず、キャリアチェンジの可能性を感じさせる結果となった。

プラス・セキュリティ人材のキャリアチェンジの可能性の考察

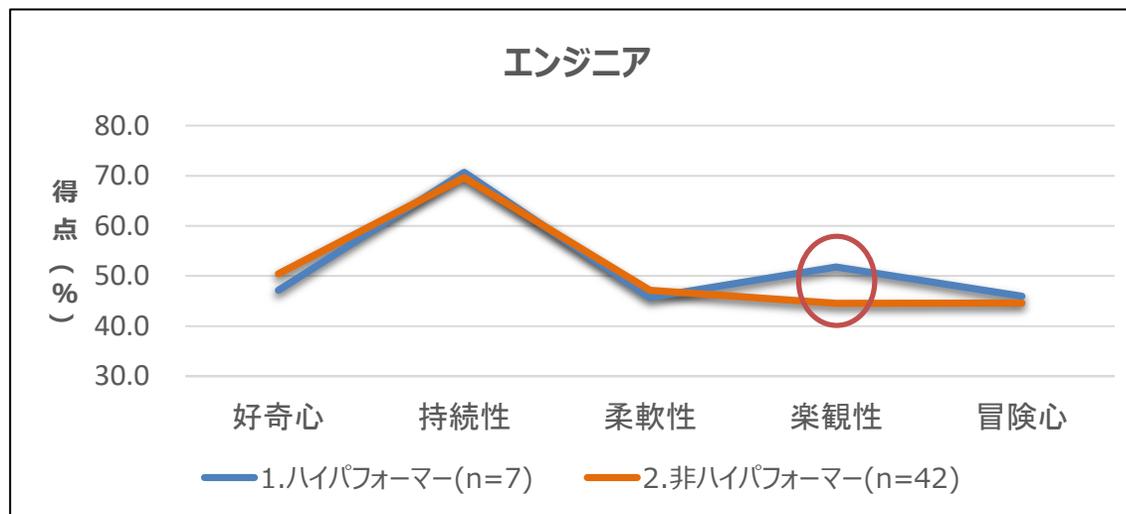
7名にアンケート、4名にインタビュー(各30分)を行った。経済産業省の資料でも登場するプラス・セキュリティ人材。プラス・セキュリティ職からセキュリティ職につく人はあまり数が多くない。しかしながら、実際にキャリアを築いている方は、「引き続きセキュリティ職に従事したい」という回答であった。今後のキャリアの道として可能性を感じる結果である。

テーマ②

「計画的偶発性理論」をベースとした、行動特性の考察



業務内容・役割を特定せず、セキュリティ人材を一括りに纏めた場合では、属性別で、**行動特性のスコア平均について大きな傾向の違いは示されなかった**。また、ハイパフォーマーと非ハイパフォーマーで比較を行った場合、物事をポジティブに捉える「楽観性」については、ハイパフォーマーが、非ハイパフォーマーよりも有意に高い結果が示された。このことは、ラベル（職種）に関わらず、セキュリティ人材のハイパフォーマーに共通する特性と想定できる。



「エンジニア」については、物事をポジティブに捉える「楽観性」の項目は、ハイパフォーマーが、非ハイパフォーマーよりも高いことが示された。

これ以外でも、業務内容・役割としてマネージャー、エンジニア、アナリスト・分析、コーディネーターの比較も行っている。また、新たな傾向調査として、業務特性『運用』・『開発』の調査もおこなった。「ハイパフォーマーは環境変化や新たな機会をポジティブに捉える（楽観性）傾向が高い」など興味深い傾向がみられた。

JNSA

